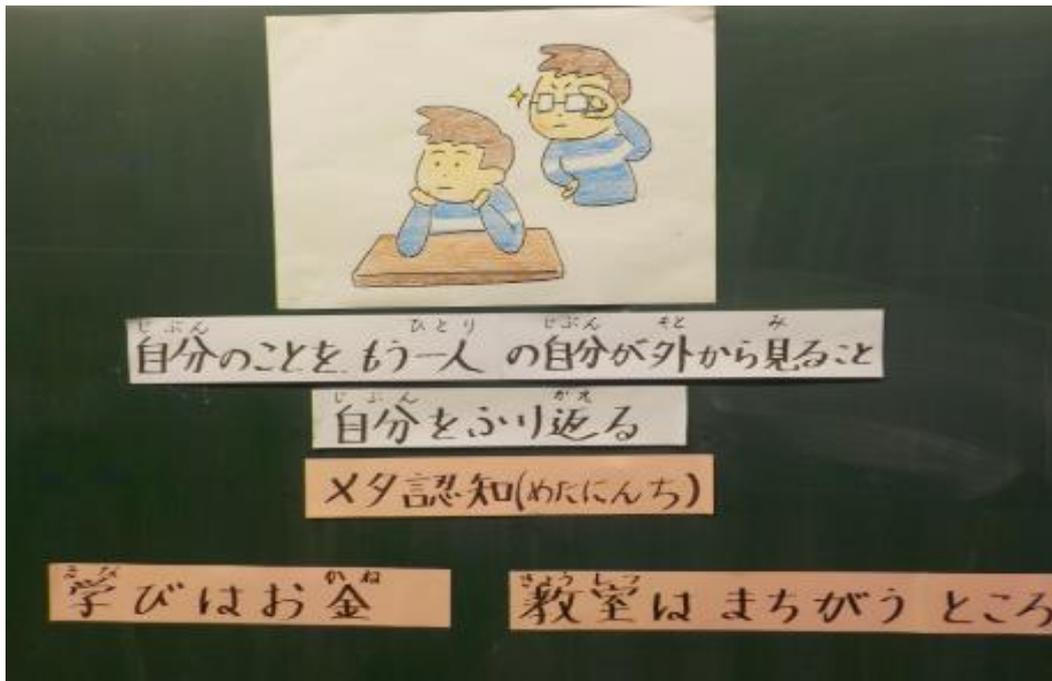


みずくらしいど

校長 加藤雅弘

『メタ認知』という言葉をお子たちに



月曜日のズーム朝会で、子供たちにも『メタ認知』という言葉を使って、「なぜ、多くの方が、立ち止まって挨拶ができるようになったのか」について解説しました。ちなみに、イラストは、實方先生の力作です。

黒板の表示にもあるように『メタ認知』について「自分のことを、もう一人の自

分が外から見ること」と表現しました。この力は、これまで、この通信でも再三触れてきました。例えば、一番初めに例示したのは、誤答分析で「なぜ、この問題を間違えたのか」を把握する例でした。今回の挨拶で、学習だけでなく生活でも同じく有効であることを伝えました。他の場面ではよくある「けんか」でも活用できます。怒りの気持ちが全面に出ている時、すぐには無理かもしれませんが、少し冷静になった時に、自分の立場だけでなく、相手の立場を、もう一人の自分が上から眺めてみるわけです。そうすると、自分目線では、とにかく相手が悪いと決めつけていたことが、相手の言い分の正当性も感じられるようになります。また、自分の言い分もちょっと行き過ぎ？など気持ちの整理ができます。そして、言い過ぎた部分を謝って仲直りしようというような気持ちの流れが見えてくるのです。しかも、それを教師など他者の介入なしに自力で成し遂げることができるわけです。そうすると、自己の成長を実感することも期待できます。

朝会では、けんかの話まではしていませんが、これから様々な場面で『メタ認知』という言葉も使いながら意識させるとともに、様々な課題に自ら気付き、自己を成長させる場面を増やしていきたいと考えています。